

1 本年度の校内研究について

【研究主題】

「進んで自分の考えを表現する児童の育成～書く学習を通して～」

【主題設定の理由】

低中高学年で書くことについて、日記や作文で自分の考えが書けない、書くことが苦手な児童の実態があった。そこで、研究の中心に書くことを据え、児童の表現力を伸ばしていけるよう本主題を設定した。

【目指す児童像】

低学年…順序に気を付けて書くことができる児童。

中学年…段落相互の関係に注意して書くことができる児童。

高学年…文章全体の構成や展開を考えて書くことができる児童。

【研究授業の日程】

教科：国語科 B 書くこと（作文）

講師：成家亘宏 先生（東京都小学校国語教育研究会顧問）

授業：1年から6年の計6本（基本的に研究推進委員から）

日程	1学期	4月	組織作り・今年度の研究の方向性決定
		6月22日（水）	研究授業①（6-1）
		7月6日（水）	研究授業②（3-1）
	2学期	9月14日（水）	研究授業③（2-1）
		10月31日（月）	研究授業④（5-2）
	3学期	1月25日（水）	研究授業⑤（4-2）
		2月22日（水）	研究授業⑥（1-1）
		3月	研究のまとめ・次年度予定確認

【学校全体で取り組むこと】

- ・月曜の児童朝会の「校長講話」の内容を捉えた文を書く。担任チェック後、校長先生へ提出。校長室前廊下クリアファイルにて掲示。（詳細は別紙参照）

【役割分担】

研究主任・6年…	1年…	2年…		
3年…	4年…	5年…	専科…	

朝学習、ファイル注文…中学年

指導案形式、データファイル、保存管理…低学年

指導案取りまとめ…高学年・専科

講師連絡・授業日調整…研究主任

事前授業日調整…各分科会研推

指導案検討、協議会…低中高分科会、研究推進員を中心に。

2 学力向上

大杉小学校の児童の学力を向上させるため、以下の取り組みを行う。

【朝学習】

水・金曜日の朝学習の時間を活用して、各学年基礎学力の向上を図る。プリントは朝学習ファイルに綴じていく。ベーシックドリルの結果を活用した学習を行う。内容は研推のメンバーを中心に学年で決定する。

【ステップアップ】

金曜日の放課後に実施。ベーシックドリルの苦手分野を中心に指導を行う。内容は研推のメンバーを中心に学年で決定する。

別紙「確かな学力向上プラン」参照。

3 昨年度の研究（参考）

【研究主題】

読解力の向上～正しく読み取る力を高めるために～

国語科の読む力を高めるために、研究授業を行った。講師には都小国研顧問の成家巨宏先生をお招きし、ご指導いただいた。

【研究経過】

- | | | | | |
|-------|-------|-----------|-----|----------------|
| (低学年) | 1 - 1 | 10月 4日(月) | 単元名 | 「だれが食べたのでしょうか」 |
| (中学年) | 3 - 2 | 10月27日(水) | 単元名 | 「くらしと絵文字」 |
| (高学年) | 5 - 2 | 11月22日(月) | 単元名 | 「マンガの方法」 |

【成果と課題】

低学年

- 「動物クイズ」を作るというゴールに向かって意欲的に取り組めた。代表児童が朝会でクイズを発表することを伝えると、それを目指してさらに意欲が高まった。
- 「問いの文」「答えの文」などの文の種類を文末表現から見つけられる児童が増え、事後の説明文の学習でも文末表現に着目していた。
- △「問いの文」「答えの文」などを見つけるには、まず音読が大切である。子どもが気づき、根拠を発表させることで学習が成立する。
- △文章の読み取りをする際には、動画はいらない。動画を観ることで完結してしまう。

中学年

- △ねらい「～について考える」⇒ねらいではない。あいまい。不適切であった。
- △発問→児童の発言というパターン。一問一答形式になりがち、気をつける必要がある。
- △子どもの興味がわくこと、ニーズにこたえるようなことをしていく必要がある。
- △音読しながら概略をつかませる、目的的な読みをしないと意欲がわかない。読む目的が大切。①見付ける ②比べる ③発見する ④考えをもつ ⑤表現する

高学年

- 好きな漫画を読んでもらう活動が良かった。
- △ペア学習で深めることは難しかった。個別の時間に読み取りが終わっている子が多い。もっと自由な時間があると良かった。
- △まんがの方法を見つけるのではなく、実際に自分で漫画を描いてみる終末の活動があっても面白かったのではないか。